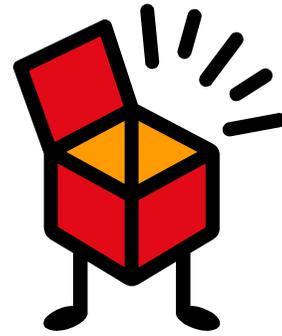


日立金属株式会社 2013年度 決算説明



Materials Mag!c

2014年4月24日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

13年度(13年4月-14年3月)業績ハイライト

売上高	8,080億円 (12年度比 151%) ※旧日立電線1Q業績合算後 8,962億円 自動車および産業インフラ・エネルギー関連製品の需要が堅調に推移
(海外売上高)	3,357億円 (12年度比 145%、海外売上高比率41.5%) 北米 942億円(構成比 11.7%)、アジア 1,832億円(同 22.7%)、欧州 469億円(同 5.8%)、その他 114億円(同 1.3%)
営業利益	595億円 (12年度比 384億円増) ※旧日立電線1Q業績合算後 628億円 需要堅調による売上増に加え、原価低減・コスト削減の効果も寄与
経常利益	609億円 (12年度比 397億円増) 営業利益の増加に加え、為替差益等により前年度対比で増益
当期純利益	394億円 (12年度比 264億円増) 事業構造改善費用他で101億円の特別損失を計上したが、増収・増益効果により、過去最高益を計上
ROE (株主資本利益率)	12.9 % (12年度比 7.4ポイント増)
設備投資額	320億円 (12年度比 53億円増) (トピックス)米国・希土類磁石工場の稼働開始、フェライト磁石の生産能力増強、韓国・自動車鋳物の生産能力増強他
減価償却費	336億円 (12年度比 94億円増)
研究開発費	168億円 (12年度比 57億円増)
フリーキャッシュ・フロー	697億円 (12年度末比 354億円増)

13年度(13年4月-14年3月)業績概要

	2012年度	2013年度		前年度比	予想比
	実績	業績予想値 (14年1月29日公表)	実績		
売上高	5,358	7,900	8,080	151%	102%
営業利益 (営業利益率)	211 (3.9%)	560 (7.1%)	595 (7.4%)	+384	+35
営業外損益	1	△20	14	+13	+34
経常利益	212	540	609	+397	+69
特別損益	△40	△50	△101	△61	△51
税前利益	172	490	508	+336	+18
法人税等	△32	△129	△112	△80	+17
少数株主利益	△10	△6	△2	+8	+4
当期純利益	130	355	394	+264	+39
ROE(株主資本利益率)	5.5%	11.9%	12.9%	+7.4	+1.0
設備投資額	267	400	320	+53	△80
減価償却費	242	340	336	+94	△4
研究開発費	111	170	168	+57	△2
フリーキャッシュ・フロー	343		697	+354	

13年度(13年4月-14年3月)セグメント別業績概要

■ 需要動向

- 自動車関連: 輸出改善を背景とした国内生産が堅調に推移、海外も欧州を除く北米・アジアで需要増加
- エレクトロニクス関連: スマートフォンやタブレット端末等の需要が堅調に推移
- 産業インフラ・エネルギー関連: 海外需要が好調に推移、国内も公共・民間設備投資ともに堅調に推移

(単位: 億円)

	売上高					営業利益					
	12年度実績	13年度予想値	13年度実績	前年度比	予想比	12年度実績	13年度予想値	13年度実績	利益率	前年度比	予想比
高級金属製品	2,229	2,400	2,377	107%	99%	177	270	254	10.7%	+77	△16
磁性材料	1,421	1,325	1,342	94%	101%	△9	120	117	8.7%	+126	△3
高級機能部品	1,720	1,870	1,877	109%	100%	102	140	128	6.8%	+26	△12
電線材料	—	2,340	2,512	—	107%	—	115	170	6.8%	+170	+55
その他・消去	△12	△35	△28	—	—	△59	△85	△74	—	△15	+11
連結合計	5,358	7,900	8,080	151%	102%	211	560	595	7.4%	+384	+35

予想値: 14年1月29日公表数値

(参考)高級金属製品セグメント

(単位: 億円)

売上高 2,377億円 12年度対比 107%
営業利益 254億円 12年度対比 77億円増

輸出改善による国内自動車生産の増加や環境親和製品の需要が堅調に推移、前年度対比で増収増益

■特殊鋼

- ・金型・工具用材料:
海外需要は好調に推移、国内需要も期後半は自動車生産の持ち直し等に伴い増加
- ・エレクトロニクス関連材料:
中小型用ディスプレイ関連材料の需要が好調に推移、半導体等パッケージ材料も回復基調となり、増加
- ・産業機器・エネルギー関連材料:
自動車関連材料は環境親和製品への需要が堅調に推移、エネルギー関連材料も航空機関連材料が伸長し増加

■ロール

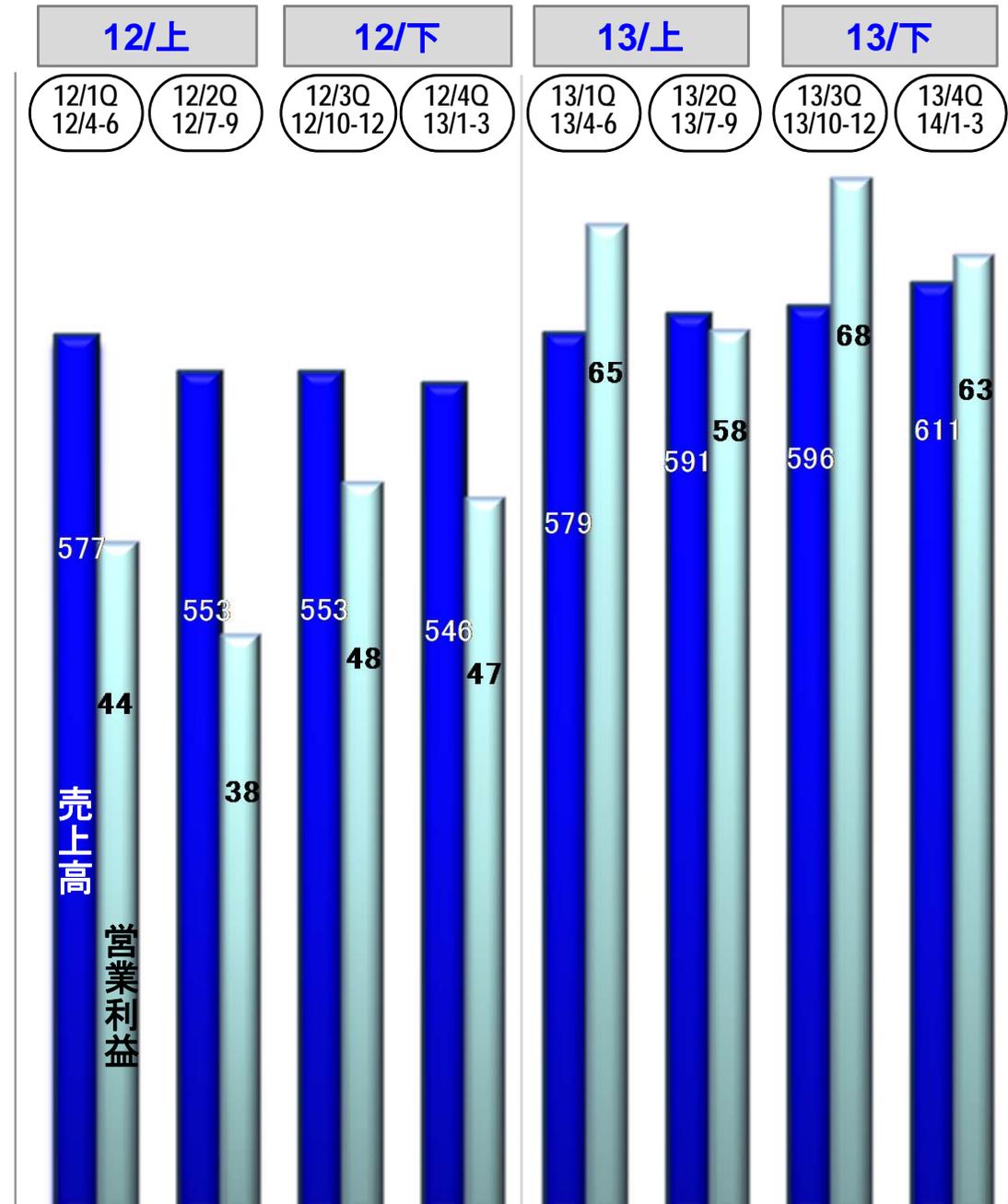
- ・各種ロール:
海外需要は増加したものの国内需要は低調に推移し減少
- ・射出成形機用部品:
国内、海外向けとも回復基調となり、前年度対比で増加

■アモルファス金属材料

主要市場である中国において、政府の省エネ機器導入推進政策等により需要が堅調に推移、年度後半に調整が入ったものの円安による影響もあり前年度対比で増加

■切削工具

産業機械等の国内需要は持ち直し傾向、海外向けも輸出改善を背景に堅調に推移し増加



(参考) 磁性材料セグメント

(単位: 億円)

売上高 1,342億円 12年度対比 94%
営業利益 117億円 12年度対比 126億円増

売上高は、自動車関連の需要は堅調に推移、FA関連の需要も持ち直し傾向となったが、原材料価格の低下による影響があり、前年度対比で減収。
 利益面では特殊要因(原材料価格低下に伴う評価減)が限定的となり前年度対比で大幅改善

■マグネット

・希土類磁石:

ハイブリッド車や国内の自動車用電装部品は好調に推移しFA関連も需要持ち直し傾向となったものの、HDD関連は市場の低迷が継続。原料価格低下の影響もあり、売上高は前年度対比で減少

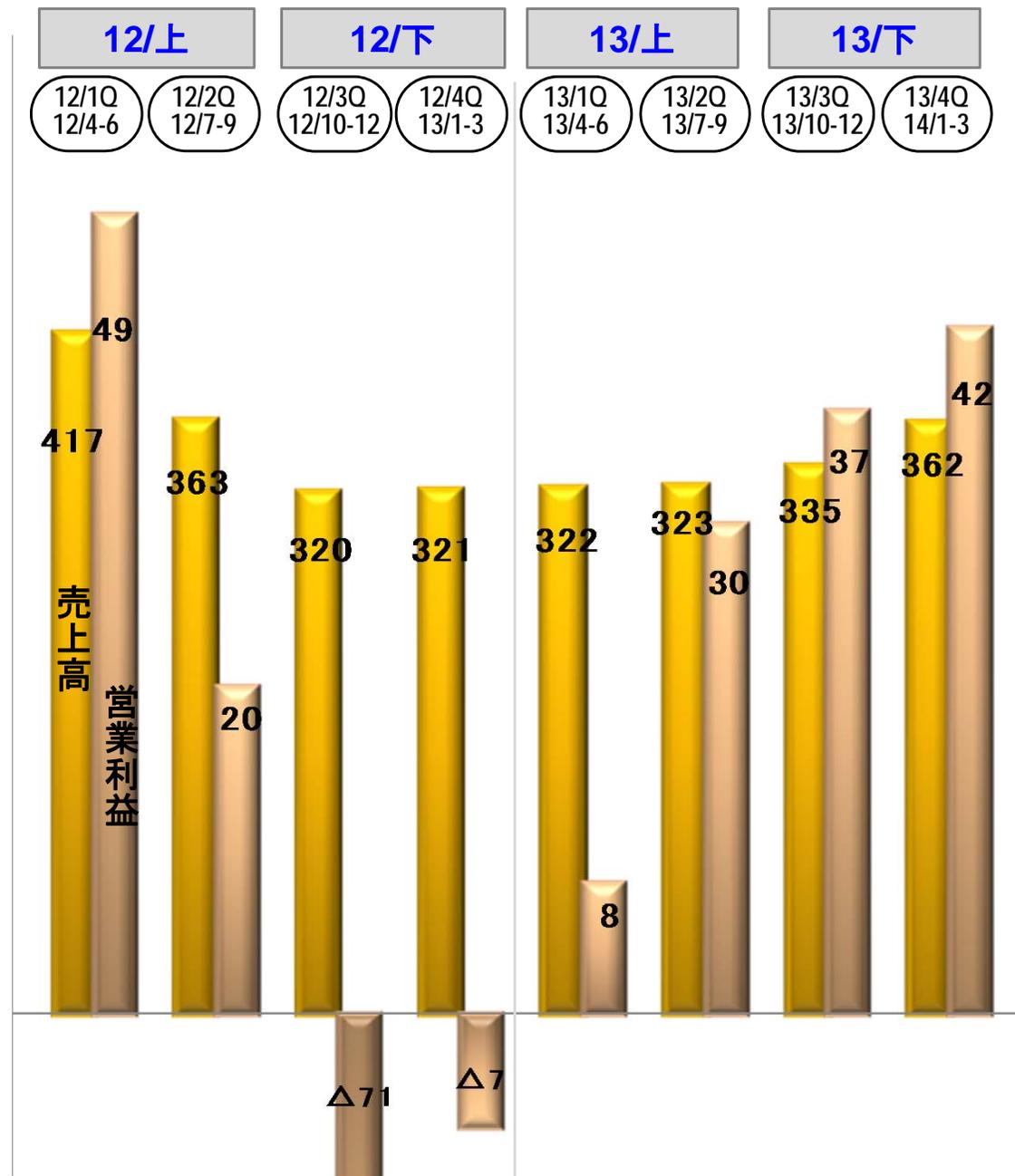
・フェライト磁石:

国内、海外とも自動車用電装部品、家電用部品の需要が好調に推移し増加

■軟質磁性材料・応用品

ソフトフェライトは太陽光発電用部品や自動車用電装部品等への需要が好調に推移。
 ファインメットも年度前半に欧州向け太陽光発電用部品の需要が堅調に推移し増加

* 第1四半期より、従来の「電子・情報部品」は「磁性材料」にセグメント名称を変更しております。これによる業績への影響はありません。



(参考)高級機能部品セグメント

(単位:億円)

売上高 1,877億円 12年度対比 109%
営業利益 128億円 12年度対比 26億円増

自動車铸件において欧州の景気低迷の影響があったものの、北米・国内の自動車関連需要や公共・民間設備投資に支えられ、前年度対比で増収増益

■自動車用铸件

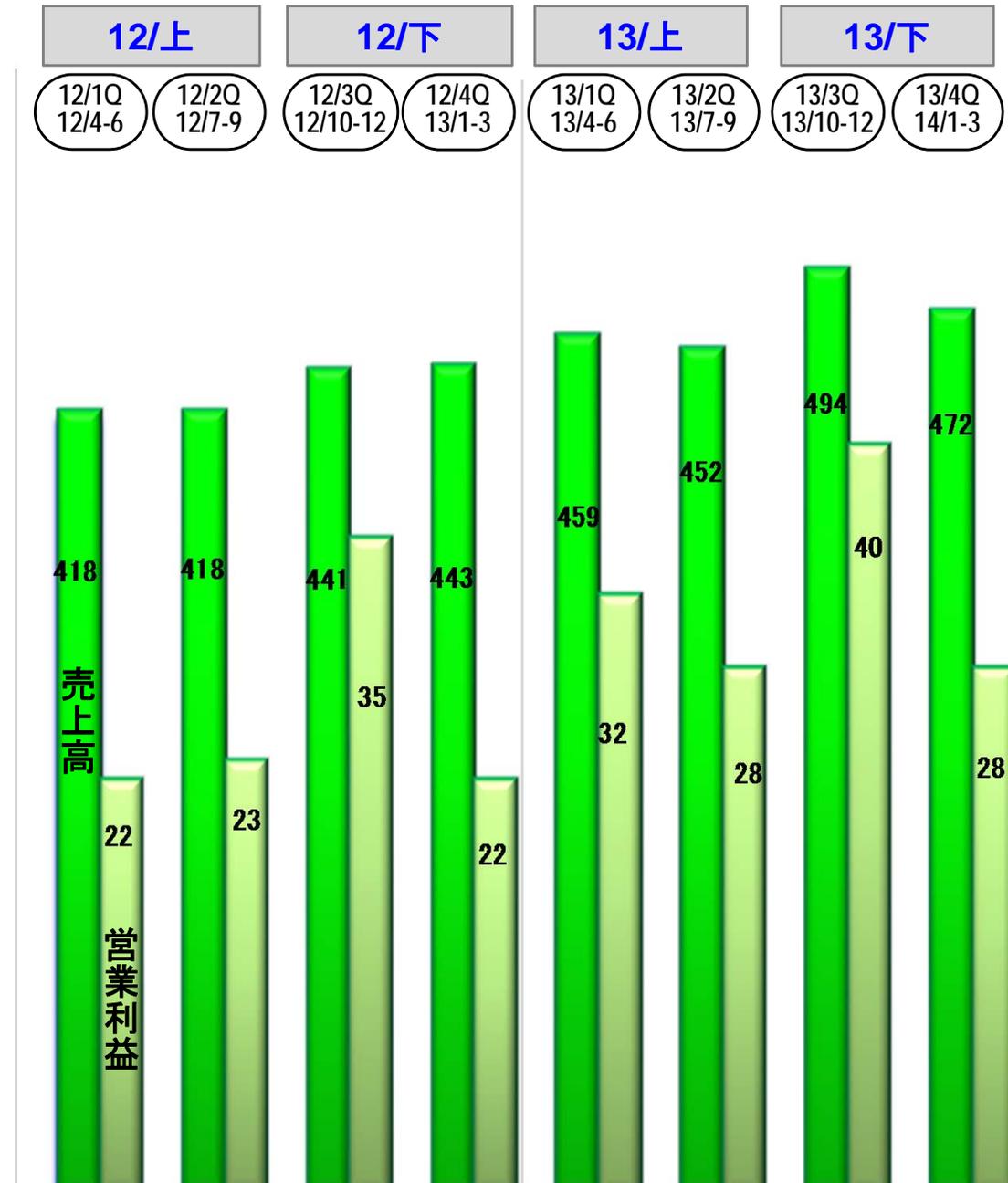
- ・耐熱鑄造部品:
主要市場である欧州の景気低迷による影響が続いたことにより前年度対比で減少
- ・高級ダクタイル鑄鉄製品:
米国等の海外乗用車需要が引き続き旺盛に推移し、国内も商用車を中心とした需要が好調に推移し全体として増加
- ・アルミホイール:
米国、国内ともに計画を下回り前年度対比で減少

■配管機器

- ・各種管継手:
国内住宅着工戸数の持ち直しに加え、米国の住宅市場が順調に回復し増加
- ・ステンレス及びプラスチック配管機器:
ガス用製品に対する施工性・耐震性の高評価により需要が好調に推移し、増加

■建築部材

国内民間設備投資や堅調な国内公共投資に支えられ、鉄骨造建設需要が好調に推移し増加



(参考)電線材料セグメント

(単位:億円)

売上高 2,512億円

参考:旧日立電線1Q合算後 3,394億円、12年度対比 94%

営業利益 170億円

参考:旧日立電線1Q合算後 203億円、12年度対比 160億円増

公共投資関連をはじめ、自動車や建設、通信関連需要が好調に推移。利益面ではこれまでの構造改革効果により収益性が大幅に改善

■電線

電力・産業システムは建設投資関連、海外鉄道案件に加え、太陽光発電施設等の建設向け需要も堅調に推移。
電子・通信材料は半導体製造装置用を中心に好調に推移。
電機材料は、巻線は自動車用途を中心に需要が回復し、太陽電池関連需要も好調に推移

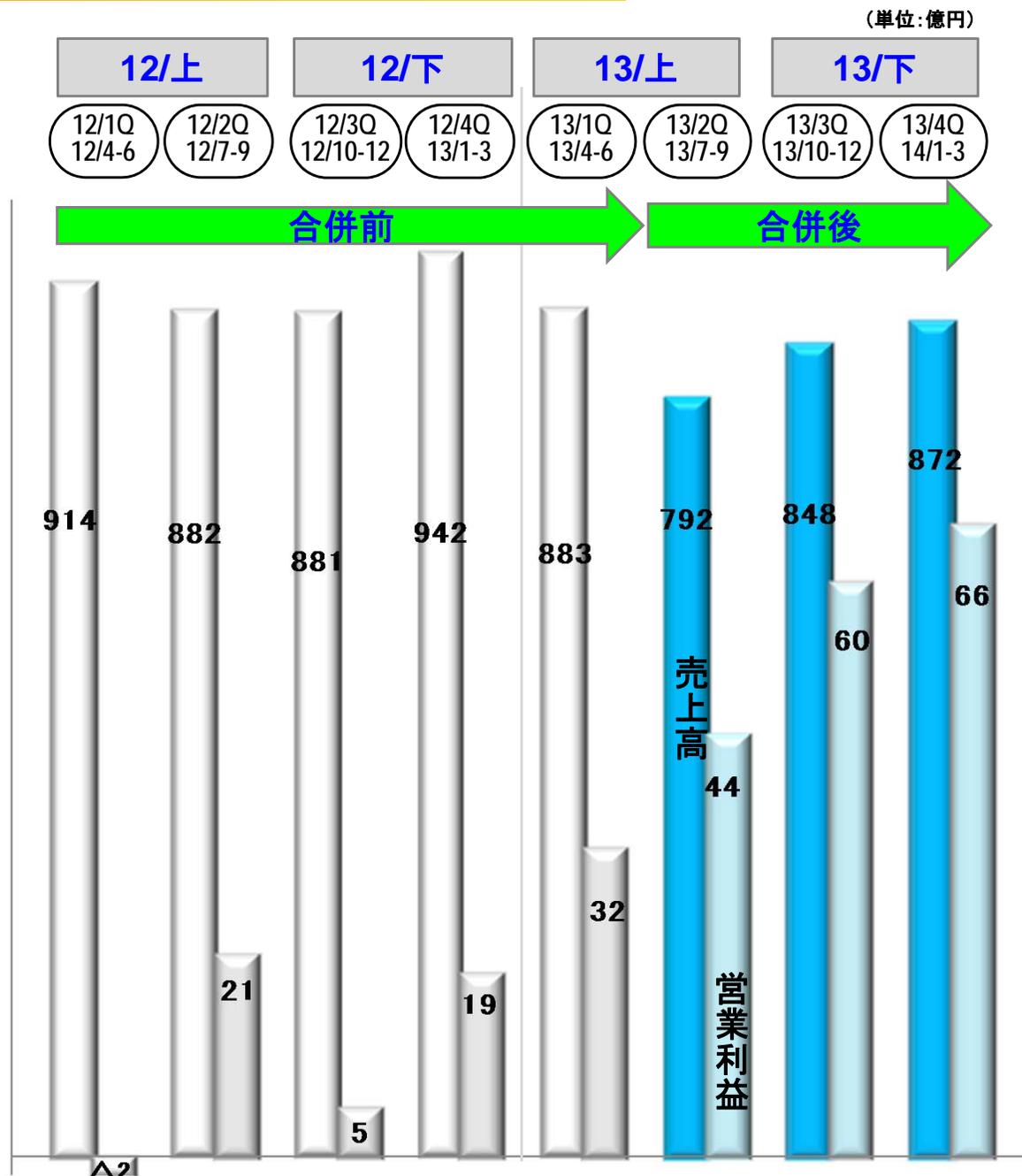
■自動車用部品

注力分野である電装部品を中心とした需要が堅調に推移、北米市場が好調なこともあり伸長

■情報デバイス

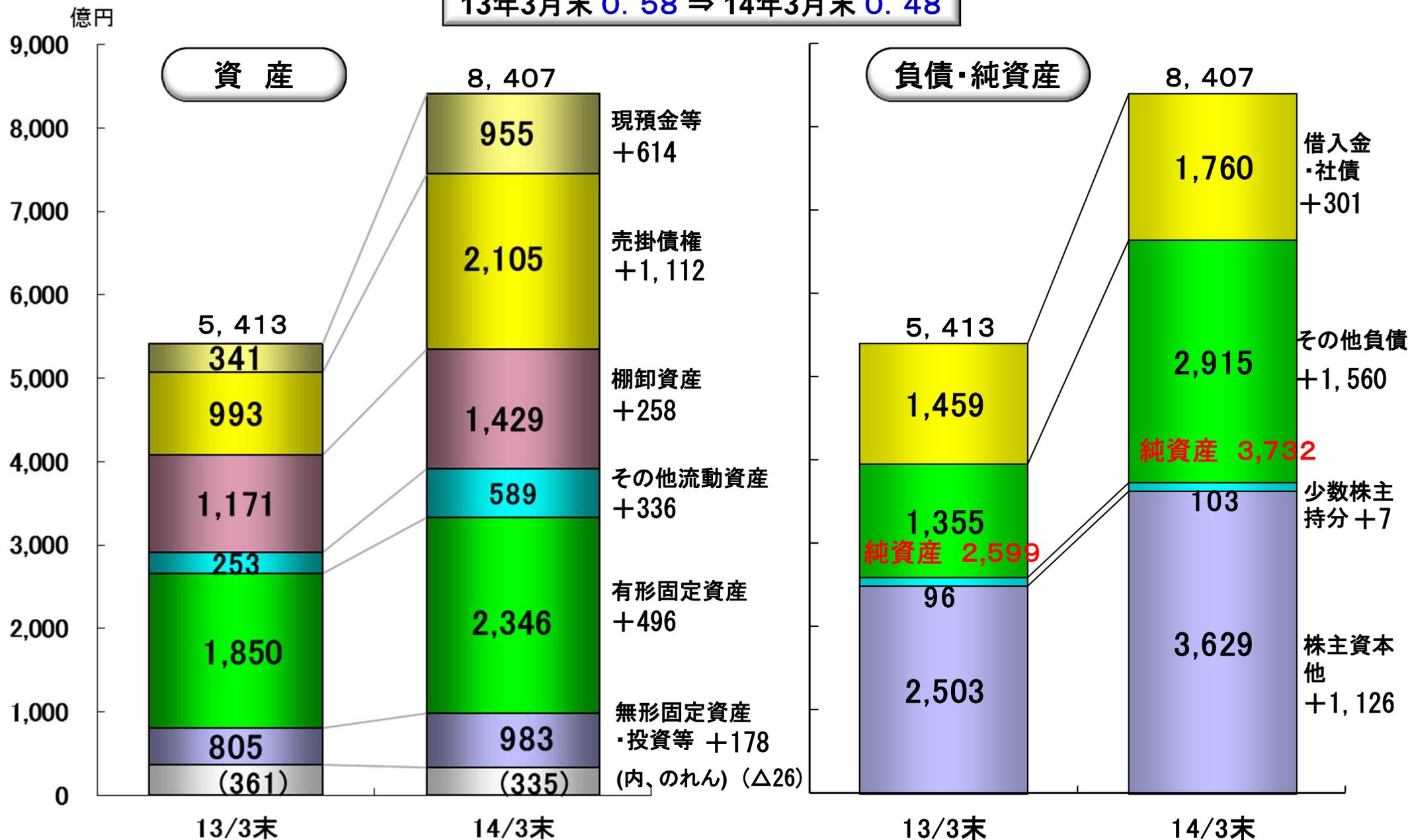
スマートフォン普及による通信事業者のネットワーク増強投資に伴うネットワーク機器の売上増加により好調に推移

* 当セグメントは、平成25年7月1日付日立電線株式会社との合併に伴って新設された事業セグメントです。第2四半期連結会計期間から当セグメントにおける業績を当社グループ業績に反映しております。



資産/負債・純資産

D/Eレシオ
13年3月末 0.58 ⇒ 14年3月末 0.48



(単位: 億円)

科 目	12年度	13年度	増減
税金等調整前当期利益	172	508	+336
減価償却費	242	336	+94
運転資金の増減	360	94	△266
その他	△144	68	+212
営業キャッシュ・フロー	630	1,006	+376
設備投資	△291	△312	△21
その他	4	3	△1
投資キャッシュ・フロー	△287	△309	△22
フリーキャッシュ・フロー	343	697	+354
借入金・社債の増減	△239	△224	+15
配当金支払他	△74	△86	△12
財務キャッシュ・フロー	△313	△310	+3
為替換算差額 他	31	227	+196
現金及び現金同等物の増減額	61	614	+553
現金及び現金同等物の期末残高	341	955	+614

14年度(14年4月-15年3月)業績予想ハイライト

売上高	<p>9,100億円 (13年度比 113%)</p> <p>新興国における景気減速懸念や国内における消費増税後の需要反動減が懸念されるものの、自動車および産業インフラ・エネルギー関連製品を中心とした需要は引き続き堅調に推移するものと見込む</p>
営業利益	<p>680億円 (13年度比 85億円増)</p> <p>売上の増加に加え、原価低減やコスト削減の効果も創出し、増益を見込む</p>
経常利益	<p>650億円 (13年度比 41億円増)</p> <p>営業利益の増加により前年度対比で増益</p>
当期純利益	<p>420億円 (13年度比 26億円増)</p>
ROE (株主資本利益率)	<p>11.1 % (13年度比 1.8ポイント減)</p>
設備投資額	<p>560億円 (13年度比 240億円増)</p> <p>(トピックス) 特殊鋼事業における大型真空誘導溶解炉の設置、希土類磁石の生産能力増強他</p>
減価償却費	<p>365億円 (13年度比 29億円増)</p>
研究開発費	<p>170億円 (13年度比 2億円増)</p>

14年度(14年4月-15年3月)業績予想

(単位:億円)

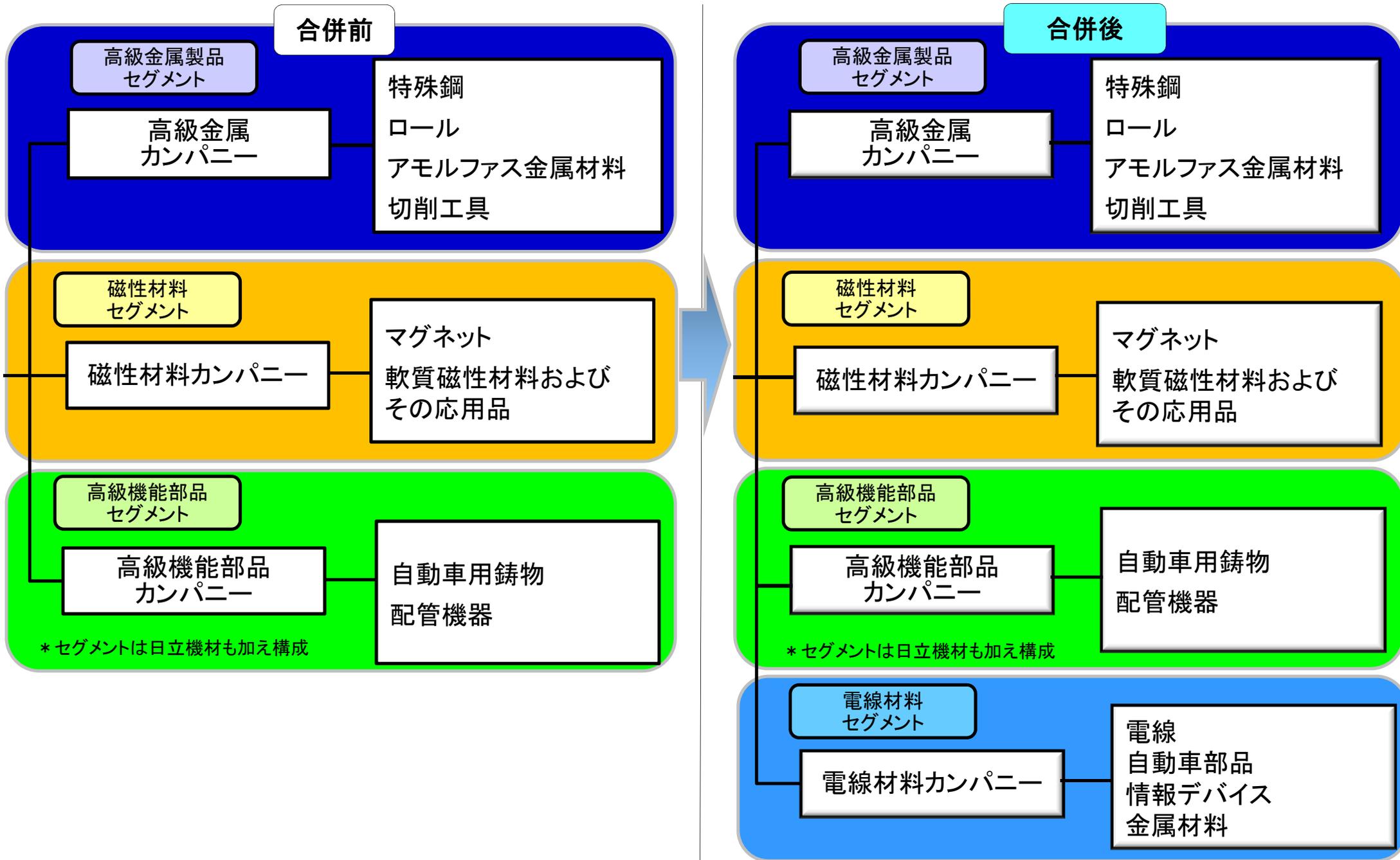
	2013年度 実績	2014年度 予想	13年度比
売上高	8,080	9,100	113%
営業利益 (営業利益率)	595 (7.4%)	680 (7.5%)	+85
営業外損益	14	△30	△44
経常利益	609	650	+41
特別損益	△101	△80	+21
税前利益	508	570	+62
当期純利益	394	420	+26
ROE(株主資本利益率)	12.9%	11.1%	△1.8%
設備投資額	320	560	+240
減価償却費	336	365	+29
研究開発費	168	170	+2

14年度(14年4月-15年3月)セグメント別業績予想

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	13年度 実績	14年度 予想	13年度比	13年度 実績	14年度 予想	13年度比
高級金属製品	2,377	2,625	110%	254	300	+46
磁性材料	1,342	1,410	105%	117	160	+43
高級機能部品	1,877	1,885	100%	128	145	+17
電線材料	2,512	3,200	127%	170	165	△5
その他・消去	△28	△20	—	△74	△90	△16
連結合計	8,080	9,100	113%	595	680	+85

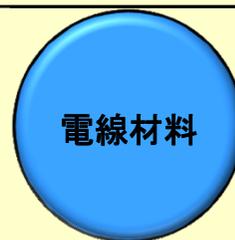
(参考)日立金属 事業構造(13年7月～)



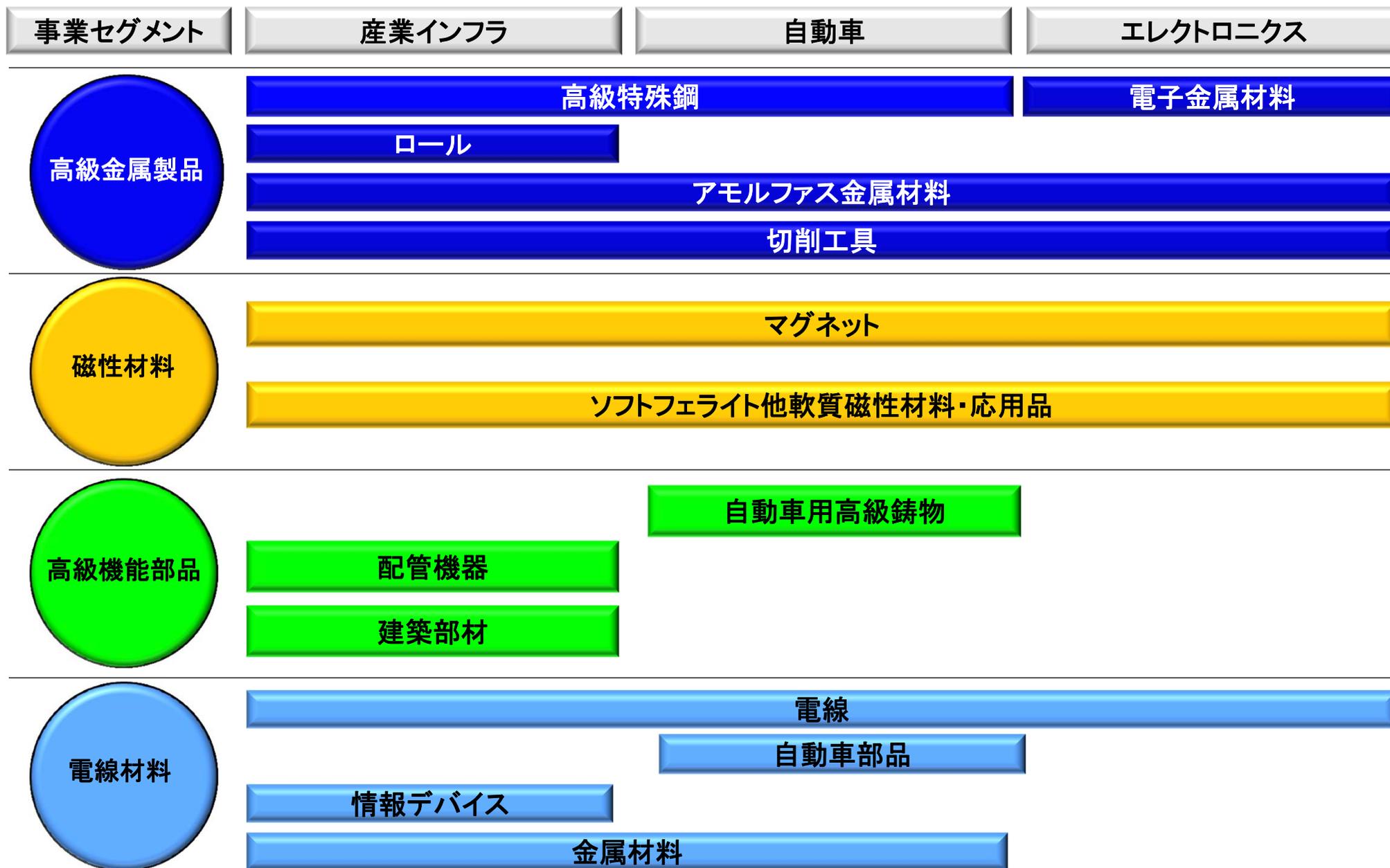
(参考) 日立金属 セグメント別事業内容 (13年7月~)

事業セグメント

主要製品

	高級金属カンパニー	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ]:金型・工具用材料、電子金属材料[ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料]、産業機器・エネルギー関連材料、剃刃材および刃物材
		ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
		軟磁性材料	アモルファス金属材料[Metglas®]
		日立ツール株式会社	切削工具
	磁性材料カンパニー		マグネット (希土類磁石[NEOMAX®]・フェライト磁石・その他各種磁石およびその応用品) 軟磁性材料(ソフトフェライト・ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®])およびその応用品、アモルファス金属材料[Metglas®]応用品、情報通信機器用部品、IT機器用材料・部品、医療機器用材料・部品、
	高級機能部品カンパニー	自動車用鋳物	自動車用高級鋳物部品(排気系耐熱鋳造部品[ハーキュナイト®]、高級ダクタイル鋳鉄製品[HNM®])、アルミホイール[SCUBA®]、その他アルミニウム部品、自動車用鍛造部品
		配管機器	設備配管機器(♁®印各種管継手・ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張用タンク)
	日立機材株式会社	建築部材(内装システム、構造システム、屋上システム)、チエン(マテハンシステム)	
	電線材料カンパニー		電線(電力・産業用電線・ケーブル、機器用電線・ケーブルおよび配線部品、光・通信ケーブル、巻線、工業用ゴム製品)、自動車部品(電装部品、ブレーキホース)情報デバイス(情報ネットワーク、ワイヤレスシステム、化合物半導体)、金属材料(黄銅製品他)

材料開発をベースに幅広い産業分野で「質」を提供する素材メーカー



本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動